

教育研究グループ「研究結果」報告書

報告日 令和 2年 4月 1日

グループ名	科学教育研究協議会東京支部	フリガナ 代表者氏名	イトウ ヒロシ 伊藤 浩史
学校名 (代表者)	足立区立加賀中学校	電話番号	03-3857-1121
研究テーマ	小・中・高を見通した生物学教育課程（繁殖を中心に）の検討		
研究期間	平成31年 4月 1日 から 令和2年 3月31日 まで		
研究結果 の概要 ※詳細は別 紙により 報告	<p>1) 学習会 年間4回の運営委員会を行った。各回とも話し合いの前に1時間半程度の学習会を行った。各回の学習会の内容は下記の通りである。</p> <p>第1回 5月12日 学習会「動物の繁殖に関する授業プラン」鈴木マドカさん 第2回 9月6日 講演「動物園を深く知る 変わる動物園の役割」山崎彩夏さん (井の頭自然文化園 教育普及係 動物解説員) 第3回 1月19日 講演「分子生物学の本質的で基礎的な内容は何か」 中西真さん(東京大学医科学研究所) 第4回 3月22日 講演「自然科学の基礎的内容を子どもたち自らの力で獲得する授業を今こそ ～新しい小学校教科書を読む」 小佐野正樹さん(自然科学教育研究所)</p> <p>2) 研究集会と公開研究授業 年3回の研究集会を企画し運営した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春の研究集会 4月21日(日) 芝中・高等学校(197名参加) ・公開研究授業 6月29日(土) 鈴木マドカさん(聖徳大学附属小学校) ・秋の研究集会 10月20日(日) 獨協中・高等学校(109名参加) ・冬の研究集会 2月16日(日) エデュカス東京会議室(21名参加) <p>3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支部ニュースの発行(年4回) ・フィールドワークの企画(ただし、新型コロナウイルスの影響などで中止) ・科学教育研究協議会全国研究大会への参加の呼びかけ ・HPの運営 ・年10回の事務局会議 		
その他 特記事項	特記事項はありません。		

科教協東京支部の研究活動

支部主催の研究活動

東京支部の春・秋の研究集会は講師が初心者に教えるような「入門講座」としてではなく、参加者も一緒に学びあい、教育実践をつくり出すことを大切にしてきました。その原則を踏まえつつも、参加者のアンケートを参考に、より参加しやすく、学びやすい方法も工夫してきました。

こうした動きをさらに進め、参加者とサークルとを結ぶために、サークル一覧を改訂して配布したり、参加者に通信や手紙、メールを送ったり、HP・メールニュースや支部ニュースなどでサークル活動の様子や研究の内容がより広い人に届くように工夫してきました。

(1) 東京支部運営委員会の活動

年間4回の支部運営委員会を開催し、学習会とサークル交流、研究集会に向けての話し合いなどを行いました。

2019年度の運営委員会の学習会は下記の通りでした。

第1回 5月12日 学習会「動物の繁殖に関する授業プラン」鈴木マドカさん

第2回 9月6日 講演「動物園を深く知る 変わる動物園の役割」山崎彩夏さん

(井の頭自然文化園 教育普及係 動物解説員)

第3回 1月19日 講演会「講演「分子生物学の本質的で基礎的な内容は何か」

中西真さん(東京大学医科学研究所)

第4回 3月22日 講演「自然科学の基礎的内容を子どもたち自らの力で獲得する授業を今こそ

～新しい小学校教科書を読む」小佐野正樹さん

(2) 春の研究集会

春の研究集会は、4月21日(日)に芝中・高等学校で197名の参加で行われました。例年通り10分科会の設置を目指し、実現することができました。

サークルのメンバーの中からレポーターを積極的に依頼した結果、研究集会で初めてレポートする人たちに報告してもらうことができました。

(3) 秋の研究集会

秋の研究集会は、10月20日(日)に、獨協中・高等学校で109名の参加で行われました。

春の研究集会に引き続き10分科会を設定しました。地学分科会では獨協中・高の周囲のフィールドワークを行いました。

(4) 公開授業研究

冬の研究集会のテーマ「動物の繁殖」に沿い、6月29日(土)に鈴木マドカさんの公開授業「動物の繁殖」(小5)を企画しました。予め2019年度第1回東京支部運営委員会などで授業案を検討し、それを踏まえての授業を見学させていただきました。

当日は鈴木さんの勤務校の教員を含めて多くの参加があり、授業後は検討会を行いました。当日はビデオ撮影を行い、編集していただいたものを冬の研究集会で視聴して授業検討を行いました。

(5) 冬の研究集会

2月16日(日)に「動物の繁殖」をテーマに設定し、21名の参加で行われました。午前中は、6月29日に行なわれた公開授業(鈴木マドカさん)の検討を行い、午後は小学校からの提案(鈴木マドカさん)、中学校からの提案(平山 勲さん)、高等学校からの提案(山崎慶太さん)について検討しました。小中高のつながりを強く意識して、動物の繁殖の学習を見通そうと意図し、小学校入学から高校卒業までにどのような概念を身につけさせたら良いかなどを議論しました。

(6) フィールドワーク

3月28日(土)に秩父フィールドワークを企画しましたが、新型コロナウイルス感染拡大を防止する観点と悪天候が予想されたことが重なったため中止しました。

4. 情報の発信

(1) 支部ニュースの発行・メールニュースの配信とMLの再構築

3ヶ月に1度の季刊発行を行いました。支部ニュースには研究集会の感想や投稿原稿のほか、サークルで行われた『理科教室』を読んでの原稿や、研究集会の案内、各サークルの活動の様子、公開授業の案内など情報の発信に努めました。

メールニュースでは、研究集会の案内やサークルの例会情報を配信しました

(2) HPの充実

毎回の研究集会の感想を掲載したり、各サークルの連絡先がわかるように工夫しました。

情報の収集・蓄積・公開を進めた結果、東京支部のHPから東京中のサークルの様子がわかるように工夫しています。

5. そのほかの支部活動

(1) 全国研究大会(福岡大会)を支えたレポート・参加者

東京からのレポートは以下のようになっています。(東京からのレポート数/全体のレポート数)

幼児・小学校低学年(生活科) (4/5)、小学校中学年(5/8)、小学校高学年(2/7)、物理(6/19)、化学(2/9)、生物(3/8)、地学(1/8)、障害児・者と自然科学教育(2/4)、自然と社会(2/6)、教員養成(3/7)と合計81本の報告中、東京支部から30本(37.0%)と福岡大会を支えました。

また、現地で行われた東京の集いは36名の参加者がありました。

(2) 科教協関東甲信越ブロック研究集会

長野で行われた関東甲信越ブロック研究集会の情報を支部ニュースなどで宣伝し、参加を促しました。

(3) 科教協全国研究会への参加

2月24日(月)に東京で行われた全国研究会の宣伝を支部メールニュースで行い、積極的な参加を呼びかけました。全国研究会の宣伝は支部ニュースに掲載し、研究会前に到着するように発送しました。当日は多くの参加がありました。

また、引き続き行われた武藤 徹さんの講演会にも多くの参加がありました。

(4) その他の活動

事務局内のMLを活用し情報の共有を行いました。また、以下の日程で計10回の事務局会議を行い支部運営のための話し合いを行いました。

4月25日、5月23日、7月25日、8月27日、9月26日、10月24日、11月28日
1月9日、2月20日、3月13日

こうした2019年度の研究・運動のなかで、自然科学教育の基礎的な内容を明らかにして広めていくことと、高校までを見通してその学習内容を学べる理科の教育課程をつくっていくという東京支部の研究・運動の基本的な方向性の重要性を改めて確認してきました。2020年度も今までの成果を活かしながら、厳しい職場環境の中でがんばっている仲間を元気づけられるような研究・運動を進めていきたいと考えています。